

地域力でまちをきれいに

扇町 第2町内会



▲町内会の方が集まり、ごみステーションをきれいに塗装

今年の5月30日に「ごみステーション」のペンキ塗りを実施した扇町第2町内会（野村卓國会長。昭和44年に組織され、これまでさまざまなコミュニティ活動を実施してきましたが、ごみステーションの手入れをしたのは今回が初めて。3カ所あるごみステーションは長い間、風雨にさらされた影響により塗装がはがれ、錆びたところも目



▲きれいに整備されたごみステーション

立つようになり、以前から役員の間では「何とかしたい」という話が出ていました。連合町内会の総会で「みんなできれいにしよう」と声をかけ、「長く使う町内会の財産を守るため」と緑色のステーションに塗り替えられました。「毎回使っている住民のみなさんにステーションの周辺はじめ、地域をきれいにする意識が出るきっかけになれば」と話す野村会長。

「昔に比べると、分別はすごく良くなり、住んでいる人の意識が高くなったと思います。昔は分別ができていないこともあって、他人が捨てたごみを再分別しましたが、他人のごみを分別するのは嫌なものです」と、分別がきちんとできていないなど気が付いたときには、町内会独自で啓蒙のチラシを配るなど、日ごろから意識を高める活動をしていま

す。また、平成24年に休止していた扇町・南町地域で組織された老人クラブ「もみの木会」が今年から活動を再開。地域に住んでいる76人の会員が所属し、月1回程度のペースで集まったり、研修旅行などを計画しています。「高齢になるとなかなか外に出る機会も減るので、また活動ができることはうれしいことです」と話す野村会長。これからも町内会を含めた、地域住民同士のコミュニティ活動が積極的に行われ、住みよいまちづくりが進められていきます。



▲独自でチラシを配布し、啓蒙や情報共有を図っている